

るプペチド類を分離し各々の性質をしらべた。

2—34. **プロタミンに対するカルボキシペプチダーゼの作用** (15) 左右田徳郎, 安藤鋭郎, ○山崎誠。牛の脾臓から調製したカルボキシペプチダーゼを用いて, プロタミン及びその誘導体に対する作用を調べた。

2—35. **カタラーゼに対する detergents の影響** (15) 左右田徳郎, ○草間慶一。リポプロテインの模型として, その蛋白にカタラーゼを, 脂質に detergents を擬して, その結合の程度を酵素に対する影響から研究した。

2—36. **大腸菌 (K-12 株) の溶原性について** (15) 渡辺格。大腸菌 (K-12 株) は溶原菌であり, これを紫外線, ナイトロジェン・マスタードなどで処理すると, 処理後一定潜伏期の後, 溶菌とともにファージの放出がおこる。この現象を菌の核酸代謝の問題に関連させて考察する。

2—37. **アルカリ処理による酵母リボ核酸の分子量の変化** (15) ○北村とも子, 中村正好, 渡辺格。酵母よりアルカリを用いずに抽出精製したリボ核酸をアルカリで処理した場合, その分子量・分子形が如何に変化するかを, 拡散・粘度の測定よりしらべた。

2—38. **ペントース核酸——プロタミン複合体の性質について** (15) 鈴木堅之。ペントース核酸 (PNA) とクルペイン, サルミンなどとの複合体の生成条件をしらべ, その複合体の溶解性, 解離性, 結合量などの研究を行い, PNA とデオキシペントース核酸 (DNA) との差異をしらべた。

2—39. **サルミンとアルブミンとの複合体について** (15) 宇井信生。上記の二種の蛋白質が等電点の中間領域で共存している場合の溶液状態を, 電気泳動, 拡散, 沈降測定などによつて調べる。

2—40. **不均一系の拡散曲線の解析について.I.** (10) ○磯見二郎, 渡辺格。不均一系の拡散曲線は均一系のそれに比し, 尖端がとがってくる。二成分系に於てその濃度及び成分拡散定数と頂点座標との間の定量的関係を導いた。

2—41. **II タバコ・モザイク・バイラスの一試料の拡散・沈降測定** (10) ○川出由己, 磯見二郎。二成分よりなるタバコ・モザイク・バイラス (TMV) の一試料の拡散を測定し, 前報の解析法

の妥当性を, 沈降測定の結果と比較して検討した。

第3日 9月27日(土) 9.00~12.00

材料工学(II), 軸受

2—42. **木造重ね梁の補強** (15) 吉識雅夫, ○竹鼻三雄。木造重ね梁の応力分布を測定し, 重ね梁の補強の機構を考察した。

2—43. **木材応力の電氣的計測について** (10) 竹鼻三雄, ○助川政之。抵抗線歪計を使用し木材構造物の応力分布を測定する装置を試作し, 木材について測定した場合の種々の特性を試験した。

2—44. **抵抗線歪計による振動の電氣的測定** (15) 植村益次, ○竹鼻三雄。抵抗線歪計によつて振動を電氣的に測定する装置を完成し, 一例として真鍮薄板の振動に及ぼす空気抵抗を測定した結果を示す。

2—45. **展脆転位温度について** (15) 横堀武夫。いわゆる低温脆性および切欠衝撃強度の問題を降伏と破壊の近接発生現象と考へて, ストカスチック論的に取扱つた物性的現象論である。

2—46. **ストカスチック論からみた疲労破壊** (15) 横堀武夫。疲労破壊を damage と破壊の継続変換現象とみなしてストカスチック論的に考察した。今回は均一引張圧縮試験を行つた。

2—47. **運動摩擦係数と表面粗さについて** (15) 宮川行雄。固体摩擦及び境界摩擦において, 運動摩擦係数と摩擦面の粗さとの関係についての実験結果を報告する。

2—48. **ジャーナル空気軸受の理論** (15) 曾田範宗, ○甲藤好郎。ジャーナル軸受において, 空気のような圧縮性流体を潤滑剤として使用した場合の特性を理論的にしらべた。

2—49. **動荷重軸受試験機の試作** (10) 曾田範宗。遠心力を利用した簡単な動荷重軸受試験機の試作報告。動荷重 $\pm(1200 \sim 1500)$ kg, および $0 \sim 3000$ kg, 回転数 2500rpm。

2—50. **ころ軸受のころおよび内外輪の温度上昇(続報)** (15) 曾田範宗, ○深谷敏夫。NF207 # 軸受のころと内外輪の温度上昇を前回と異つた方法で各種運転条件下に測定し, ころの温度の非常に高いことを再確認した。